

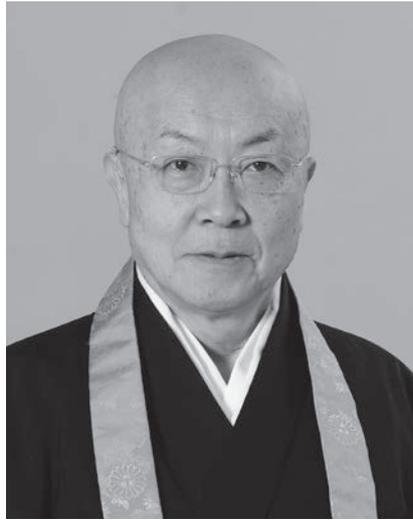


一般社団法人 大日本武徳会

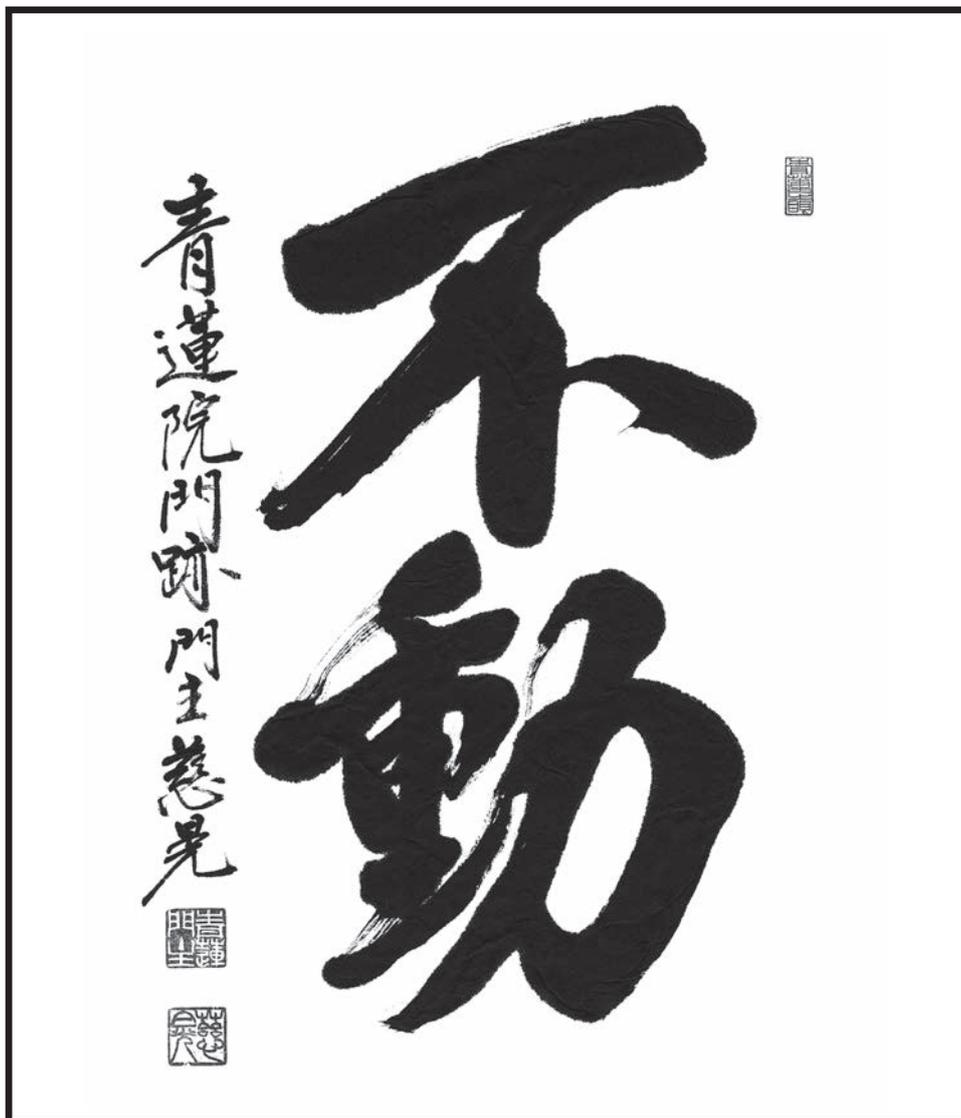
会報 **武徳**

2018.10 秋季号





一般社団法人 大日本武徳会



未来に羽ばたく大日本武徳会

濱田 鉄心

本会の会員各位におかれましては、平素より当会発展の為に並々ならぬご尽力を賜り厚くお礼申し上げます。大日本武徳会は創設以来、日本武道界の歴史の中で顕著な啓蒙的発展に計り知れない貢献を果たしてきました。その栄光の歴史をいかにして未来に引き継いでいくかが、現在の大きな課題でありチャレンジであると考えます。

まず、本年度初頭に開催された総会において決定された主催事業や協賛事業、会報発行などが次々と実行され大きな成果を生み出しておりますのは、ひとえに皆様方の絶大なるご賛同とご協力の賜物であると思えます。本会役員一同を代表いたしまして重ね重ねお礼申し上げます。

次に、総会において発表されましたように、本会が未来的に発展していく為には現実的に何をすべきかを、会員の皆様と共に考え具体策を戦略的に打ち出していく必要があると考えます。その中でも会員増強は最大の関心事であり、組織の経済的安定を図っていく必要があります。高齢化が一段と進む中、若い世代の会員を少しでも増やしていく努力がされなければなりません。各団体長におかれましては何卒一層のご尽力を賜りご協力をお願いいたします。

また、主催事業の中でも本会の誇りとする全国武徳祭に、本年度から抜本的な試みを実施しております。元より本会は伝統武道の保存継承を主要目的としておりますので、全国より著名な武道団体を招聘して、武徳祭をさらに質的に高度な大会行事にしていきたいと考えます。今年度は外部六団体に参加していただき大変盛り上がりました。来年度はさらに十数団体が参加する盛大な武徳祭となることを期待します。著名な武道家が武徳殿において集結し、その伝統武道精神を共に分かち合う事で、さらなる意義が見いだせるものと思えます。協賛事業も加えてご協力していただき、各支部活動が本会への発展に貢献する事を期待したいと思います。

さらに、本会は保存継承の一環である主要事業として伊勢神宮、平安神宮、青龍殿において奉納古武道演武大会を計画しております。その中に青少年の枠を組み入れる事により、早い時期から青少年に伝統武道と伝統文化に馴染みをもたせ、教育指導していくことが肝要かと思われれます。

本会が唱える未来的発展には青少年育成が大きな課題です。伝統武道に関してあまり人気がない状況を見据えて、それに対する積極的な対抗策を打ち出す必要があります。青少年を指導されている先生方に

は、一層のご協力とご尽力をお願い致します。

加えて、二〇二〇年には第六回世界武徳祭が実施されます。この大会は東京オリンピックと同じ年に開催されることから、伝統武道のオリンピックとして本会が世界に発信できるメッセージを打ち出せる最上の機会であると考えます。既に海外三十か国ではその準備に入っており、本会も素早くその実行にむけて準備にとりかかる所存ですので、各団体長におかれましては精力的なご支援とご協力を何卒宜しくお願い致します。

かねてよりお知らせをしていますが、本会の事務局設置と将来的な次世代の発展を図る為、武徳会館の設立を積極的に計画しております。これは本会の建設的ビジョンでありますので、会員各位には何卒精力的なご協力を賜りますようお願い申し上げます。

いかなる美辞麗句や明快な哲理や論点も、実行が出来なければ全て机上の理論でしかありません。我々は常に有言実行を正論として捉え、何が本会にとってベストであるかを会員の皆様と共に熟考しながら未来へ着実に堂々と羽ばたく決意でありますので、これからも一層のご指導とご協力をお願い申し上げます。

今年日本各地において台風、地震、集中豪雨などの自然災害により多くの方々が被災されました。お亡くなりになりました方々のご冥福を祈ると共に被災された方々のお見舞いを申し上げます。さらにも一日も早い被災地域の復旧と復興を心からお祈りいたします。

末尾になりましたが皆様方の益々のご発展とご健康を心からお祈りいたします。





大日本武徳会 創立123周年記念

第56回 全国武徳祭

日時 平成30年4月29日（日・祝）

午前10時

場所 京都市武道センター・旧武徳殿

主催 一般社団法人 大日本武徳会

後援 京都府 ・ 京都市

創立百二十三周年記念 第五十六回 全国武徳祭 表彰

● 団体最優秀賞

愛知県 名城大学体育会居合道部

● 個人最優秀賞 桑原兵充杯

兵庫県 心月無想柳流 古武道甲武館 竹田 豊

● 京都府知事賞

大阪府 素心流居合抜刀術 宮 園 國 男

● 京都市長賞

三重県 古流無双直伝英信流居合兵法 神和会 山口 峻 輝

● 団体優秀賞 【十団体】

大阪府 虚心流居合剣法 弓刀錬心館道場

京都府・滋賀県 一心無双流居合道 剣心会

大阪府 神伝円心流

兵庫県 日本古武道直心会

大阪府 大阪修武会

福島県 新誠館

大阪府 誠道館 虚心流居合剣法

神奈川県 天真正伝香取神道流

フランス 国際部 フランス支部

ロシア 国際部 ロシア支部

● 団体奨励賞 【十団体】

京都府 日本武道空手協会

大阪府 沖繩又吉古武道 光道館 大阪堺守礼館

石川県 石川県支部 こぼと修童館

長野県 長野県支部 古武道唯心会

京都府 至誠館

京都府 土佐伝承無双直伝英信流 理法塾

大阪府 武徳和魂会 心傳流柔術

三重県 古流無双直伝英信流居合兵法 神和会

千葉県 日本伝千葉一心無双流居合兵法 千葉剣心会

栃木県 無双直伝英信流 英信館

● 団体努力賞 【十一団体】

島根県 貫心流居合術 神武会

徳島県 誠正館抜刀術神伝流

奈良県 北攝古武道会

愛知県 日本戸山流居合道

茨城県 陽武館 市村道場

大阪府 日本古式武道協会 拳刀会

京都府 直伝円心流居合道

愛知県 尾張英信流錬駿館

大阪府 日本古武道 武公館道場

広島県 武心流空手道 継心会

アメリカ 国際部 アメリカ支部

● 招待団体特別賞 【五団体】

滋賀県 沖繩剛柔流空手道協会 順栄館 止観道場

大阪府 非営利活動法人 全日本伝統居合道連盟 明心館

京都府 教育武道 拳心館
 愛知県 尾張貫流槍術・柳生新陰流兵法 春風館道場
 石川県 金沢工業大学 正伝長尾流銃術部

個人賞

優秀賞【六名】

京都府・滋賀県 一心無双流居合道 剣心会
 徳島県 誠正館抜刀術神伝流
 フランス 国際部 フランス支部
 ロシア 国際部 ロシア支部
 千葉県 双水執流武尊会
 福島県 新誠館

奨励賞【十名】

大阪府 日本古武道 誠慧塾
 大阪府 神伝円心流
 フランス 国際部 フランス支部
 フランス 国際部 フランス支部
 茨城県 陽武館 市村道場
 大阪府 土佐直伝英信流 一心塾
 ロシア 国際部 ロシア支部
 大阪府 大阪修武会
 大阪府 日本武道空手協会
 京都府 直伝円心流居合道

努力賞【二十七名】

アメリカ 国際部 アメリカ支部
 大阪府 虚心流居合剣法 弓刀錬心館道場
 島根県 貫心流居合術 神武会
 広島県 武心流空手道 継心会
 奈良県 北攝古武道会
 石川県 石川県支部 こばと修童館

川崎 竹藏
 樫野 正
 A. Cognard
 A. Arabadjiev
 伊藤 學
 美野 清孝

樋口 友視
 谷村 浅明
 M.Dossola-Paviot
 F. Palazzolo
 伊藤 正樹
 松本 和清
 D. Ivanov
 永井 節哉
 二又 静明
 小野 純一

B. Myers, Jr.
 小川 善也
 米山 正行
 藤本 准三
 高橋 三郎
 小矢崎 朋彦

【剣道の部】

優秀賞

三重県	古流無双直伝英信流居合兵法	神和会	吉岡 美保子
愛知県	日本戸山流居合道		小山 洋平
兵庫県	日本古武道直心会		鴻上 昭夫
長野県	長野県支部 上田明倫館道場		近藤 直美
愛知県	名城大学体育会居合道部		坂口 祥大
大阪府	日本古武道 武公館道場		古本 勝則
東京都	東京蘆州會		内藤 勝裕
福岡県	無双直伝英信流		杉生 蘭
長野県	長野県支部 古武道唯心館		高木 宏造
京都府	至誠館		山本 英理
大阪府	誠道館 虚心流居合剣法		伊坂 隆行
大阪府	神奈川県 天真正伝香取神道流		嶋田 翔悟
大阪府	水心流 楠誠会館		新見 仁誠
大阪府	武徳和魂会 心傳流柔術		神崎 仁美
千葉県	日本伝千葉一心無双流居合兵法 千葉剣心会		山口 俊博
栃木県	無双直伝英信流 英信館		西井 俊司
大阪府	沖繩又吉古武道 光道館 大阪堺守礼館		末次 修一
愛知県	尾張英信流錬駿館		田中 雄二
大阪府	日本古式武道協会 拳刀会		新井 真二
石川県	正伝長尾流銃術		落合 劍匠
茨城県	水府流		

奨励賞

大阪府 誠道館 虚心流居合剣法

広島県 広島県支部 広島柳生会

努力賞

大阪府 水心流 楠誠会館

藤江 成美
 平田 与一
 渡部 達也





御礼の御挨拶

創立123周年記念第56回全国武徳祭も皆様の多大なるご協力と御支援によりお陰様で無事盛大裡に終了いたしました。

ありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

一般社団法人 大日本武徳会

大会 参 与

ご協賛及びお祝金をいただいた個人及び団体（順不同）

御 芳 名	御 芳 名	御 芳 名
濱田 鉄心 (国際部) 様	桑 原 兵 充 様	松 村 則 夫 様
山 本 楠 城 様	伊 藤 学 様	市 村 章 様
至 誠 館 様	桶 田 正 信 様	石 本 一 平 様
中 田 武 太 様	明心館道場 深井 吉信 様	北 川 茂 様
村 上 亨 様	順栄館 止観道場 様	木 下 公 子 様
貫 心 流 様	竹 田 豊 様	川 村 八 朗 様
村 山 盛 哲 様	杉 野 至 寛 様	神和会 山口 峻輝 様
杉 生 闌 祐 様	一心無双流剣心会 様	足立織物 足立 泰一 様
鹿 山 勇 様	小 松 秀 敏 様	

名城大学体育会居合道部は、創部五十三年の歴史がある大学の部活動がもたなくなっていきます。しかし、近年学生の体育会離れの傾向があり、武道系クラブの部員減少と維持存在が厳しい現状となっております。居合道部もその影響を受けています。

本来学生が主体となって参加していたため、武徳会登録は名城大学居合道部ですが、現在は居合道部OBが中心と



団体最優秀賞

第五十六回全国武徳祭 団体最優秀賞

名城大学体育会居合道部 小林 信之

大日本武徳会は明治二十八年設立時に、規則第一章総則第一条において八項目の目的を掲げており、そのうち「二 毎年武徳祭ヲ挙行スル事」「三 武徳祭ニハ武道ヲ講演シ以テ武徳ヲ永遠ニ伝フル事」を一般社団法人大日本武徳会として今日の武徳祭へと継承されてきました。今年で百二十三周年となる武徳祭を盛大に遂行され、更なる飛躍の兆しがみえた大会であったこと心よりお慶び申し上げます。また、その第五十六回全国武徳祭で団体最優秀賞を受賞できたこと大変光栄に存じます。

なり、武徳会に加入しています。そのような状況のなか、今年は部員一名のみと居合道部OB他で演武しました。

私共は団体演武において、団体競技ではなく古武道であるから、技を全て皆で合わす必要はないと考えています。日々の稽古で各自が高段者の技や間を学んで吸収し、一人一人の技量を上げることが団体全体のレベルを上げることになり、団体演武の評価につながる。さらに、師からは常々「日々の稽古の成果がそのまま演武に現れる。普段からきちんと修練を積んでおけば良い。」と語られます。そうしたなかで、今年は招待演武団体も含め大変多くの団体が参加するなか、このような栄えある大賞の表彰は、私たち会員にとって今後の励みになりました。

この武道は、奥が深く先が長く続く道でありますので、会員共々日頃の修練を怠ることなく、個の技量を上げるとともに、ひとりの武道家として成長し、伝統武道の神髄である礼節と態度品格においても規範となるよう精進していく所存です。

最後に大会運営に御尽力されました先生並びに関係者の方々への感謝と、大日本武徳会の益々の繁栄をお祈り申し上げます。

個人最優秀賞

個人最優秀賞・桑原兵充杯を拝受し、
更に精進を

心月無想柳流柔術 古武道甲武館 竹田 豊

第五十六回全国武徳祭は本会にとり特別の大会になりました。初めて本会以外の団体の先生方を招待しての全国武徳祭です。特別招待演武五団体が演武を行いました。武種別では空手道二団体、古武道二団体、居合道一団体の五団体が出場。そして国際部からはフランス支部、ロシア支部並びにアメリカ支部の参加者を加えての素晴らしい記念すべき大会となりました。

今回の全国武徳祭で、私は個人最優秀賞「桑原兵充杯」を賜りました。この上

ない光栄の至りであります。これもひとえに本部諸先生方のご厚情の賜物と深く感謝申し上げます。

個人最優秀賞・桑原兵充杯を自宅へ持ち帰り改めて感動で心が奮い立ちました。受賞は記念すべき重要な節目であります。道程における一通過点であるのも確かです。次の通過点を目指し決意も新たに気持ちを引き締め、賞に恥じぬよう更に精進していく覚悟です。

京都市長賞

京都市長賞を拝して

神和会 山口 峻輝

名誉ある賞を頂き、心よりお礼申し上げます。

孫子は「百戦百勝は善なるものに非ざる也 戦わずして、人の兵を屈するは善の善なるもの也」と。

居合においては「居合の勝負は鞘の中」と云われております。

我が師 第二十代宗家 河野百錬先生の教え、「正・速・強・威」を守り、少しでも「勝負は鞘の中」の境地に近づける様、これからも修練を続けていきたく努力致します。

「術に終期なし 死を以て終りとす」

この度の受賞、有難う御座いました。

個人奨励賞

個人奨励賞を受賞して

陽武館市村道場 居合道 錬士六段 伊藤 正樹

この度は、大日本武徳会創立百二十三周年記念第五十六回全国武徳祭において個人奨励賞を賜り、誠にありがとうございました。これもひとえに大会会長はじめ本大会の運営に携わられた役員の方々の先生方のお陰であり、心から感謝しております。

旧武徳殿という歴史ある舞台上で演武できることは、武道家にとつては大変な荣誉であり、身の引き締まる思いでした。また、今年度は当会所属の先生方の演武だけでなく、招待演武団体の先生方の鍛えられた技も拝見することができ、本当に有意義な大会でした。

私は、陽武館市村道場において、「武道は生涯が修業である」という館長市村章先生の理念のもと、居合道と剣道を学んできました。この理念に少しでも近づけるように、これからも、両道の稽古に励んでいきたいと思えます。

最後になりましたが、一般社団法人大日本武徳会の益々の御発展をお祈り申し上げます。



私ごときが奨励賞を賜り感謝・感激

直伝円心流居合道 小野 純一

第五十六回全国武徳祭に今回参加させて頂く事が出来、そして思いもよらない奨励賞まで賜りまして有り難く感謝・感謝の気持ちで一杯です。

昨年は狭窄症が良く成らず、体調不良で参加が出来ず、久々に今回参加させて頂きましたが、体調は未だ完璧では無く、合わせて今回孫達二人が初めてに成ります全国武徳祭に参加させて頂いた事も有り、私までもが年甲斐もなく緊張のあまり無我夢中の中の演武でしたが、何とか終えられたのではないかと、自分を納得させ安堵しています。

全演武が終わる表彰式が始まりましたが、名前を呼ばれた時、私、狭窄症のみでなく難聴にもなっています事も有り、ましてや私が呼ばれることなど微塵にも思っていませんでしたので、聞き間違いだと思っていました。自分だと分かり一瞬戸惑いましたが、私自身が奨励賞を授かり誠に有難うございました。嬉しく心より感謝いたしますし、大変恐縮いたしております。

今回の事を糧にして今後も心身ともに健康を保って、尚一層稽古に励み心を引き締め精進し、少しでも上達し、長らく居合が続けられる事を願い、そして大きな課題であります直伝円心流を絶やすことなく、継承して行かなければなりません。年齢を重ね満身創痍の未熟な私ですので、願いを叶えられるのは容易な事では有りませんので、何卒代表理事濱田鉄心先生はじめ諸先生方、そして事務局他関係者の方々には、お力添えご指導御鞭撻を賜り見守って頂けましたら、この上もなく有り難い次第です。何とぞ宜しくお願い申し上げます。





高段者審査会 合格者

居合道

六段 早川 貢一

六段 橋本 御

六段 渡辺 円裕

六段 前田 宜伸

六段 山口 博

六段 鈴木 美香

七段 木下 裕子

空手道

七段 安藤 貞男 (宗舟)

八段 大沼 州彦 (宗龍)

前夜祭



国際部錬成大会



「第五十六回全国武徳祭記念 国際部錬成大会」報告

上村 雅彦

平成三十年四月三十日京都、旧武徳殿にて「第五十六回全国武徳祭記念国際部錬成大会」が開催されました。

国際部より、フランス国、ロシア国、アメリカ国の各支部の方達が各国より集結され大変素晴らしい数々の演武を奉納されました。

本部からは範士濱田鉄心代表理事、範士竹田豊先生、範士山本楠城先生、範士藤井正巳先生、教士渡邊佳代子先生、大会ドクターとして教士井本敏弘先生、錬士渡邊祥正先生、本部事務局より二名、上村雅彦の十名が参加しました。

祓いの儀を範士山本楠城先生。
演武、ロシア支部が柔術と居合道、アメリカ支部が合気柔術、フランス支部が合気道、納めの儀を教士渡邊佳代子先生が演じられました。

厳かなる武徳殿にて各国支部の武道家達が武道を学ばれ、世界に日本武道と武徳を伝える努力と決意を感じることができました。

今回、国際部の見事な演武を拝見させて頂き、武術の伝承が世界に正しく受け継がれていることが喜ばしく感じるとともに、我々日本も今一度原点に返り精進する必要性を感じる次第であります。

一般社団法人大日本武徳会が益々発展する為にも国際部の今後の御活躍を期待するとともに我々日本全国の先生方とも連携させていただき、二十二年の「第六回世界武徳祭」を盛大に開催出来ますように努力して参りますので、一般社団法人大日本武徳会全国の先生方の御協力を宜しくお願い申し上げます。





第2回 伊勢神宮奉納 古武道演武大会



日時：平成30年6月9日（土）
11時30分より

場所：伊勢神宮「内宮参集殿」

主催：一般社団法人 大日本武徳会

第二回伊勢神宮奉納古武道演武大会の印象

濱田 鉄心

六月九日の早朝は前日の雨が遠のき幾分初夏の暑さが感じられる日差しに恵まれた。宇治橋を渡っていく折に悠然と静かに流れる五十鈴川に反射する太陽の輝きは一段と美しく、身も心も洗われていくようであった。二千年以上遙か彼方の古代日本の世界が広がる心のふるさとへの襪みせきの旅路はこの第一歩から始まる。

内宮（皇大神宮）神楽殿において執り行われたご祈祷と特別大大御神楽は余りにも神秘的であり、その伝統的な舞に秘められた奥ゆかしさは言葉の世界を超越する。引き続き参集殿において開会式が成されお能舞台において本会の先生方は心と魂を込めた素晴らしい古武道演武を肅々と奉納された。各人がそのお能舞台に立ち御正宮に対して向かう時、伊勢の山々から自ずと清風が吹き悠久不変の天地の恵みを感じ取る事が出来る。恐れ多くもそういう深遠な伝統の世界で奉納演武が出来る事は大きな喜びであり名誉である。この由緒ある内宮参集殿において参加者一同が心を一つにして奉納演武を通じて作り出した瞬間は幽玄の世界であった。饗膳所で閉会式を執り行った後、伊勢の深い森林に囲まれた玉砂利を歩んで御正宮に向かい、最後に御正宮御垣内参拝をさせて頂き大御祖神おおみおやがみである天照大御神に深い感謝を込めてお祈りを捧げた後饗膳所に戻り、参加者一同は本大会の内なる感動を確

認し解散した。

本会が日本伝統武道の保存継承を主要な目的と唱える中で、伊勢神宮奉納古武道演武大会は歴史的な繋がりのみならず、日本の精神文化の原点であることから極めて重要である。我々はこの奉納演武大会の伝統をさらに輝かしい形にする為に、会員の一層のご協力とご賛同をお願いしたい。最後に伊勢神宮の小松揮世久大宮司、立野智洋神宮権禰宜、菱川由貴宮掌には格別のご配慮を賜り厚くお礼申し上げます。



伊勢神宮奉納古武道演武大会の報告

渡邊 佳代子

平成三十年六月九日(土) 本会主催事業である第二回伊勢神宮奉納古武道演武大会が、伊勢神宮・内宮の参集殿能舞台に於いて挙行されました。

神域に潤いをもたらした雨が上がり、柔らかな陽射しと心地よい風に迎えられ、午前八時参集殿に入りました。奉納の準備が整い午前九時四十五分、参集殿前に参加者は並び、手水舎にて身を浄め神楽殿へと向かいました。別大々神楽では、神様に舞いをされている神職の方のお姿に、今日奉納すべく神々に感謝と敬意そして、気位と品格を持った立ち居振る舞いなどを見せて頂きました。

また、能舞台に於いての奉納演武では、日常を感じさせない異空間とも言える場所にいる自分自身と向き合い、そしてこれからの課題も見えてくる奉納となりました。ご正宮と能舞台の間に何も妨げるものが感じられないのも、ここに祀られている神々の偉大さともいえるのではないのでしょうか。

伊勢神宮での奉納演武に参加することは誰にでもできることではなく、神々のお許しが出て足を運ぶご縁を繋いでいたかなければなりません。今年、ご縁を頂いたことに感謝すると共に、お願いをするのは恐れ多いと思いつつも、来年も武徳会と縁のある武道をされている先生方と伊勢神宮でのこの特別な奉納を一緒に経験させて頂けますよう、祈りながら伊勢神宮を後にしました。

第二回伊勢神宮奉納古武道演武大会に参加して

至誠館 藤井 正巳

このたび六月九日の第二回伊勢神宮奉納古武道演武大会に参加して、以前にも

まして荘厳で威厳に満ちた素晴らしい体験をしました。

第二回伊勢神宮奉納古武道演武大会ならではの独特の雰囲気もさることながら、何とも言えない不思議な感覚にとらわれました。

大会進行委員長をさせて頂いておりましたが、各先生方が礼式と時間を守った素晴らしい演武をされましたので大会は順調に進みました。

残りが数団体になったときに司会進行を変わってもらい、控えて待つっていると、背筋が自然と伸び肩の力が抜け気持ちが増してくるとよく起ころるのですが、この時はなぜか

もっと集中しようと考えました。

そして、橋掛かりを出て歩んでいくと、床が足に吸い付いていく感覚になり全体の視野が大きくなり更にはつきりと鮮明に見え始めました。

演武では個々の動きが正確に把握でき、以前にもまして感覚が研ぎ澄まされた感がありました。このような体験をできたのも濱田代表理事はじめ諸理事の皆様方や役員の方のおかげで、おおいなる感謝をするとともに、一般社団法人大日本武徳会並びに国際部の益々の隆盛をご祈念もうしあげる次第です。

御礼の御挨拶

第2回伊勢神宮奉納古武道演武大会も皆様の多大なるご協力と御支援によりお陰様で無事盛大裡に終了いたしました。

ありがとうございました。厚く御礼申し上げます。
一般社団法人 大日本武徳会

ご協賛及びお祝金をいただいた個人及び団体・企業

(順不同)

御 芳 名	御 芳 名
桑 原 兵 充 様	濱 田 鉄 心 様
川 村 八 朗 様	竹 田 豊 様
至 誠 館 様	山 本 楠 城 様





第 23 回 全国青少年武徳祭



日時： 平成 30 年 7 月 16 日（月・祝）
午前 11 時

場所： 京都市旧武徳殿

主催： 一般社団法人 大日本武徳会

後援： 京都府・京都市

第二十三回 全国青少年武徳祭 表彰

● 団体最優秀賞

大阪府 日本古式武道協会 拳正会

● 団体優秀賞 〔二団体〕

京都府 形意和真流唐手道 武学館

● 団体奨励賞 〔二団体〕

石川県 こぼと修童館

京都府 至誠館

● 団体努力賞 〔三団体〕

大阪府 日本古武道 武公館道場

京都府 日本武道空手協会 正守和道塾

大阪府 武徳和魂会 心傳流柔術

● 個人賞

● 個人最優秀賞

大阪府 日本古武道 武公館道場

福本有理

● 個人優秀賞 〔五名〕

大阪府 日本古式武道協会 拳正会

京都府 形意和真流唐手道 武学館

石川県 こぼと修童館

京都府 至誠館

京都府 日本武道空手協会 正守和道塾

● 個人奨励賞 〔七名〕

大阪府 日本古式武道協会 拳正会

京都府 形意和真流唐手道 武学館

石川県 こぼと修童館

京都府 至誠館

京都府 一心無双流居合道 剣心会

大阪府 武徳和魂会 心傳流柔術

大阪府 大阪修武会

● 個人努力賞 〔八名〕

愛知県 日本戸山流居合道

大阪府 日本古式武道協会 拳正会

京都府 形意和真流唐手道 武学館

京都府 至誠館

石川県 こぼと修童館

大阪府 日本古武道 武公館道場

京都府 日本武道空手協会 正守和道塾

大阪府 武徳和魂会 心傳流柔術

小屋陽平

平川結

廣川華

渡邊大也

芳賀洸翔

小屋翔平

藤原芙光

中村姫梨

稲見光馬

小田朱乃

中野修斗

秦野静

向井友悟

立谷清陽

亀屋龍平

榊原優那

野村侑芽加

芝原大気

芳賀愛心

西川舞音

第二十三回全国青少年武徳祭報告

至誠館 藤井 正巳

平成三十年七月十六日京都市武徳殿において第二十三回全国青少年武徳祭が執り行われました。

例年のない夏の暑さの厳しいなか、神聖な武徳殿において執り行われ、この日の最高温度が三十八度ないし三十九度の中、青少年武徳祭が進行しました。

午前八時に武徳殿に集合し、案内デスク、国旗、武徳会旗等、様々な準備に入りました。午前八時三十分より先生方がお見えになり、午前九時には検証員が本部前に集合し、平安神宮での祈願祭に参加される皆様が武道センター前に集合し平安神宮へ出発しました。

午前十時三十分より平安神宮において祈願祭が執り行われました。

午前十時五十分には青少年が本部前演武場内に集合し、整列しました。

午前十一時には総裁をお迎えし開会式へと移りました。

開会式では、竹田大会実行委員長の開会宣言で始まり、国歌斉唱、前年度の団体最優秀杯の返還へと続きました。

東伏見慈晃大会会長によるご挨拶があり、山本大会検証委員長の注意事項等があり、祓いの儀へと進んでまいりました。

日本古武道武公館道場の福本有理さん、日本武道空手協会正守和道塾の芳賀愛心さんらによってすばらしい祓いの儀で青少年武徳祭の演武が始まり、記念撮影後、昼食に入りました。

午後一時より午後の部が始まり、日本古武道武公館道場、形意和真流唐手道武学館、こぼと修童館、日本古式武道協会 拳正会チームA・B、日本武道空手協会 正守和道塾、大阪修武会、日本戸山流居合道、武徳和魂会 心傳流柔術、至誠館、一心無双流 剣心会と次々に演武が続き今までは違った緊張感と口では言い表せない素晴らしい会場が包まれました。この暑さのなか休憩は折に触れて挟みましたが、猛烈な暑さにめげず気迫のこもった演武が行われました。

最後に納めの儀を、こぼと修童館 廣川華さん、武学館 平川結さんが執り行

い続いて表彰式へと移りました。

表彰式では、通常の表彰の後、国際部代行の竹田大会実行委員長による特別表彰が国際部よりフランス武徳祭のメンバーに渡されました。

午後三時三十分閉会式が執り行われ、木下実行委員の講評を賜り、大会実行委員長の竹田理事より閉会宣言があり、国旗、武徳会旗に礼をして終了しました。

この暑さの中、青少年武徳祭が滞りなく行われたことで、一般社団法人大日本武徳会のさらなる発展、繁栄が約束されたことと考えております。

御礼の御挨拶

第23回全国青少年武徳祭も皆様の多大なるご協力と御支援によりお陰様で無事盛大裡に終了いたしました。

ありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

一般社団法人 大日本武徳会

ご協賛及びお祝金をいただいた個人及び団体

(順不同)

御 芳 名	御 芳 名
濱 田 鉄 心 様	竹 田 豊 様
至 誠 館 様	山 本 楠 城 様





団体最優秀賞

全国青少年武徳祭に参加させて頂いて

拳正会 田中 天心

昨年の青少年武徳祭は九月に開催されましたが、今年は、台風を考慮し七月十六日に開催される事になりました。今年は異常気象の影響を受け猛暑日が続き出場者及び引率保護者の方々に對し各自、帽子、水筒の持参及びクールビズの対策をお願いし、拳正会事務局側も、クーラーボックス、スポーツ飲料、水、冷却用タオル等、参加者の補充用や一般参加者の方にもご利用頂けるよう充分の量を用意して参加しました。そして当日には全国より約八十数名の青少年演武者が集い、盛大に開催されました。

拳正会としては、出来るだけ多くの子供達に歴史ある旧武徳殿での演武に参加し、その重厚な雰囲気や、出場される他団体の方々の素晴らしい伝統武道の演武に触れてもらいたいとの思いから、昨年の出場者以外から、二十名を選出しA・B、二チームに分かれ参加してもらいました。各道場にて演武種目を決め、A・Bチームで演武内容が重複しない様に調整し、合同での通し稽古などを通じて演武速度を合わせる事による他者への配慮や協調性の必要などを学んで頂ける様にと練習してきました。

平成の元号での最後の開催になる記念すべき大会との思いや、各チームの選手達の頑張りや、師範の熱い指導もあり、昨年に引き続き団体最優秀賞の栄誉を受賞する事が出来ました。また参加者個人としても、平安神宮での奉納演武や、個人優秀賞、奨励努力賞等を受賞出来た事は今後の人生に於いて貴重な体験や、大きな励みになったものと思っています。

昨今の子供達を取巻く環境は、価値観の多様化や高度情報化もあり決して良い環境であるとは言えないものがあり、行き過ぎた権利主張や、個人主義になりが

ちです。

私たちが武道を志す者の使命は将来を担う子供たちを心身ともに健やかに育て上げていく事であると考えております。

心身ともに強くなる為には、多くの試練や苦しみを乗り越える力(心)が必要となるものです。日々の練習は単なる肉体の成長、技術の習得だけでなく、必ずや精神の鍛錬につながっていきます。

私ども拳正会は、一般社団法人大日本武徳会の趣意にも謳われていますように文武一徳の教えを守り、今後も空手道を通じて青少年の健全な育成に邁進して参る所存です。

最後に、本大会に出場する機会を与えて頂いた大日本武徳会・桑原兵充副総裁・代表理事濱田鉄心先生を始め本部役員の諸先生方に感謝致しますと共に、本大会に出場された諸先生方の今後益々のご発展、ご健勝を祈念申し上げます。

団体優秀賞

子供たちの成長を知る

形意和真流唐手道武学館 藤原 弘喜

第二十三回全国青少年武徳祭のご成功おめでとうございます。また、団体優秀賞を授与頂き誠にありがとうございます。

全国青少年武徳祭に武学館が初めて参加した時の選手たちの多くは大学生や社会人になり、その先輩たちの勇姿を眩しそうに見ていた幼い子供たちが、今では小さな後輩たちを引っ張る頼もしい先輩となっています。今までは、演目を只々一生懸命に演じ、無事成功することばかりに気を取られていましたが、漸く子供たちの成長した姿を眺められるようになり、改めてこのような機会を頂いた武徳祭の存在に對し感謝する次第です。

武学館も空手道大会等スポーツ化した競技に積極的に参加しています。勝敗に

一喜一憂しながら、勝つことに拘るトレーニングを研究し、少しずつですが成果が出ていることを感じます。組手試合や形試合に参加することは、子供たちの心身の成長に大きく寄与しているように思います。先輩たちの「強さ」や「勝つ」ためのテクニクのバトンを後輩たちが受け取り、競技の「勝ち」を繋げていくということは、とても価値あるスポーツ活動だと思います。武学館は、子供たちの人間形成にとってスポーツ活動としての武道を大切にしています。

全国青少年武徳祭は「勝ち」も「負け」もない自分たちの武道に対する姿勢を見つめなおす場だと思っています。そして武道活動にとって大切なことは「技」の継承だと思っています。自分たちが稽古する「流派」の技に敬意を払い、大切に学び、そして次の世代に繋げていく。「勝つ」「強さ」ではなく、「技」を繋げていくということは、良好な人間関係も大切ですし、上級者としての誇り、先輩としての責任感、後輩たちの素直さ等様々な要素が必要となります。

今回の全国青少年武徳祭に武学館が参加するにあたり、今までとは違い参加者全員が同じ技を披露しました。先輩も後輩も上級者も下級者もみんなが同じ技を稽古し、一つにまとまるように団結し、協力し合いながら武徳祭に向かいました。普段の稽古の時から、選手同士相談したり、注意したり、叱咤激励しながら過ごした日々には子供たちの成長の種があるように思います。そして武徳殿でその種が芽となり花が咲く。そこに昨年とは違う、そして普段の稽古時よりも更に成長した姿が現れると思います。指導者として親として家族として応援する者として子供たちの成長を目の当たりにすることはとても喜ばしいことです。

子供たちの成長の花が開く場として全国青少年武徳祭が今後継続して開催されますますます発展していくことを心より願っております。



これからは

形意和真流唐手道 武学館 小学六年 平川 結

私は、第二十三回全国青少年武徳祭で個人優秀賞をもらうことができ、とてもうれしいです。また武徳祭までは、あまり練習できなかったため、不安でとても緊張しましたが、参加してよかったと思っています。あまり練習ができなかったのは、他の習い事で疲れてしまい、稽古に行けなかったからです。けれど、武徳祭の他の人たちの演武はとても丁寧ですごいと思いました。そして、練習を何度も何度もして、あんなにすごい演武ができるんだ、と思いました。だからこれからは、自分も他の人にすごい、と思ってもらえるような演武をするために、疲れていても、遅くなっても稽古に参加しようと思います。

武徳祭

形意和真流唐手道 武学館 小学五年 藤原 芙光

第二十三回全国青少年武徳祭では、いろいろな道場の人たちがたくさん来ていたので、みんなの前で選手宣誓をすることになっていたので、うまく言えず、後でお父さんに怒られました。それでもいろいろな道場の選手の演武を見たり、仲間と二人で演武をしたりして、楽しかったり悲しかったりした一日でした。二人で演武する「相對」では、自分も本気で打ち込み、相手も本気で打ち込んでくれたのでいい武徳祭になったと思います。来年は、もっとしっかり声を出し、もっとレベルの高い技ができるようにしようと思いました。

支部だより

一般社団法人大日本武徳会大阪府支部

平成三十年

住吉大社奉納演武大会開催さる

大阪府支部長 村田 雅人

一般社団法人大日本武徳会大阪府支部住吉大社奉納演武大会が平成三十年三月二十五日（日）、本部ご後援のもと住吉大社境内、住吉武道館にて開催されました。

〔祓い・玉串奉奠〕

当日早朝、住吉大社神楽殿において演武の無事遂行を祈願し、お祓い、神楽舞ならびに大阪府支部長村田雅人による玉串奉奠がなされました。

〔奉納演武大会〕

続いて住吉大社境内住吉武道館にて奉納演武大会が開催されました。今回は剣道場と柔道場の仕切りを取り外し、道場を広く活用致しました。

剣道場には国旗と住吉大神の書軸ならびに住吉大神の画軸が掲げられ、誠に神々しい雰囲気の中、支部長の開会宣言に引き続き、国旗に礼、君が代斉唱、住吉大神神前に礼、ご来賓として公益財団法人住吉名勝保存会住吉武道館長 東郷信行先生のご出席を賜り、心のこもったご祝辞を賜りました。心より感謝申し上げます。

げます。また、代表理事濱田鉄心先生の心のこもったご祝辞を頂き、又、大日本武徳会本部より本部理事本会副支部長 山本楠城先生にご来賓としてご臨席を賜りましたこと深く感謝致します。更に、石川県支部井本敏弘先生にも特別参加として花を添えて頂きましたこと深謝致します。

〔祓いの儀〕

神伝円心流居合剣法 範士八段 森内一藏先生による誠に立派な祓いの儀がなされました。

〔奉納演武・午前の部〕

・心傳流柔術・北野隆雄先生らによるすばらしい心傳流柔術演武がなされました。また、いつもながら十名の少年、幼年部、凛としたすばらしい演武、襟を正す思いでございました。かけがえのない徳目が将来に引き継がれます。誠に喜ばしく拝見いたしました。

・日置流印西派巻藁体配大弓術・北川茂先生ご一門による大弓神事がなされました。装束を着装されたの演武、誠に格調高く立派な神事でした。

・神伝円心流居合組討兵法・森内一藏先生ご一門による神事、試斬、ならびに居合組討が行われました。特に、以前に示された据物斬りは座禅の観法修行道にてその背後に剣法の裏付けを有し、正に武道即仏道たる精神の体現は体術と合わせて見事でした。

・虚心流居合剣法・山本楠城先生ご一門によるいつもの重厚な演武、ご立派な華を添えていただきました。

・日置流半弓術・北川茂先生ご一門による日置流半弓術が演武され、前回同様練度が高く、道場の空気が張り詰めた緊張感漂う立派な演武でございました。

・素心流居合抜刀試斬演武・宮園國男先生ご一門による試斬がなされました。誠に豪快、見事な太刀さばきで快刀乱麻を断つといった観、華を添えていただき

ました。

- ・無双直伝英信流居合道・大誠会村田雅人一門、基本技演武を致しました。
- ・虚心流居合剣法組太刀居合・北川茂先生ご二門による組太刀が演武されました。実戦的で迫力があり練度も高く立派な居合剣法でございました。

〔懇親会〕

今回は一階ロビーを解放、第一研修室にて懇親会を開催致しました。

〔奉納演武・午後の部〕

- ・無双直伝英信流居合道・尾ノ上克己先生による年齢を感じさせない立派な演武でございました。
- ・無双直伝英信流居合兵法・誠慧塾樋口友視先生ご二門による演武がなされました。師伝に基づく大きな立派な技でございました。
- ・居合術直伝英信流・井本敏弘先生（特別参加）による直伝英信流が演武されました。誠に柔らかな大きな立派な居合でございました。
- ・無双流居合剣術・大阪修武会（太田淳一先生）ご二門による古流に則った演武はご立派でございました。

〔納めの儀〕

納めの儀が範士八段無双直伝英信流村田雅人によりとり行われました。

〔謝辞〕

大会の準備や進行、終了後の処理にご協力を頂きました武道館員の皆様方に深く感謝致します。

〔出席〕

演武参加者 五十一名（一般の部・四十一名、青少年の部・十名）

一般社団法人大日本武徳会の今後の更なる発展と各位の武徳に栄光あらんことを祈念申し上げます。乱筆乱文ご容赦下さい。



第二十四回

宮島嚴島神社奉納

古武道演武大会によせて

大会実行委員長 藤江 成美

平成三十年六月三日、第二十四回宮島嚴島神社奉納古武道演武大会を開催いたしました。今年は大、一週間前には九州地方が梅雨入りを致しまして、大会当日の天候を大変心配しておりました。雨に降られずと演武前の身体をほぐす場として提供されており、実質使用できません。平素、修業を重ねた熟達の方々の参加を頂いているとは言え、主催者と致しましては気を揉む事でありました。しかしながら当日は、雨に降られる事も無く又暑すぎること無く、この大会によせる関係者の思いを御くみ取り頂いた様に嚴島神社の三神様のご加護を感じた次第でありました。

十時には、受付を開始し大会参加者をお迎えいたしました。正午より執り行われます正式参拝までに着替えを済ませて、早めの昼食を取って頂きました。地元食材に拘って用意いたしました大会用の特別弁当は、好評の様でありました。正式参拝は、演武者八十名、サポーター四十名総勢百二十名にてお祓いを受け、お神酒を頂き記念のお守りを賜りました。

其の儘、祓殿に場を移し開会式を執り行いました。実行委員長の開会宣言に先立ち物故者への黙禱を参加者全員で捧げまして開会宣言と致しました。開会式では、大会会長の開会挨拶に続き、本部代表理事代行の藤井監事（至誠館）及び山本理事（虚心流）両先生からの祝辞を頂きました。その後、京都で行われました全国武徳祭での表彰状及び盾の授与を行いました。広島県支部継心会への団体賞及び藤本准三教士七段への個人賞を本部代表理事代行藤井先生より授与して頂きました。授与されました団体関係者の中には涙する者も有り、良き大会の記念のページと成りました。演武上の注意では、武人としての立居振舞に留意し、参拝者の迷惑にならない様に特に気配りをお願い致しました。壁の無い国宝祓殿では、神社関係者は無論、一般の参拝者の容赦の無い目にさらされております。武人としての平素の修業による礼の習得の如何が試される場でも有ります。開会式の最後に貫心流のダニエル君のアメリカ帰国に際しての饞別の木刀を手渡しました。島根の地で英語教師として来日し、貫心流に巡り合い、当大会へ参加し、日本人の奥様と巡り合い、帰国して行く若者への心ばかりの饞で有りました。開会式終了後は、昨年は失念しておりました記念の集合写真を参加者全員で撮りました。

本大会演武の一番手は、昨年最終演武をお願い致しました神伝円心流の森内先生御一門でありました。毎回、何が有っても参加頂いております。有り難い事であります。そこから十八流派・団体の渾身の演武が展開されました。平素の修業の成果を宮島嚴島神社の三神様に奉納すると共に、参集しました武道同志への披露を通しての有形無形の問い掛けでも有りました。流派武種は違えど互いに感銘を受け、触



発された演武が次々と展開されました。一流派・団体に夫々応じて与えられた占有の場であります国宝祓

殿での演武は、三百六十度全てから参加者及び参拝者の眼に晒されます。演武者は、自身の正面は無論、左右後ろと一部の隙も許されません。まさに正念相続の最高の修業の場でも有りあります。専門家の厳しい眼も無論ありますが、本当に怖いのが一般参拝者の所謂武道素人の方々の眼であります。参拝の為に何気なく回廊を通り過ぎて行く、そんな中でもザワザワと回廊を移動する足がピタリと止まる瞬間があったのです。其の眼は、自然と祓殿の中に向けられ音も発てずに固唾をのんで見入っております。有り難い光景でありました。今年も青少年育成の為に継心会、中西会より数名の少年少女に出場して貰いました。将来間違いなく熟達の遣い手に成って行くであろう若葉の如き清々しい瑞々しい青少年の演武には、固唾を飲んで見守っていた観衆も笑顔で思わず拍手で答えておりました。微笑ましい光景でありました。今年も親子孫三代の演武を披露してくれました中西会(空手道)三代の個人演武では、大和君(孫)から始まり、智美さん(母、愛娘)、中西館長(父、祖父)の順で演武を行いました。大和君が子を見守る師でありながら、祖父として母としての思いが溢れ、愛娘を母を見守る二人の様子は、見事に熟達した愛弟子(娘)への眼差しと、眩しく凛々しい母の姿に誇らしさを感じている息子としての大和君の笑顔が光彩を放っております。足の痛みを物ともせず、現在只今の自身の渾身の演武を愛弟子二人の眼に焼き付けるように今年も宮島厳島神社の祓殿の場に立ち、平生の道場では伝授出来ないこの場でしか伝えられない有形無形の伝授を行った中西館長でありました。各流派・団体が、平素の修業の全てを余す事無く遣い切り、最後に初参加であります虚心流山本楠城先生の演武にて今回の奉納演

武を終える事と成りました。

天候に恵まれた大会で有りましたが、二度の冷たいオシボリで一汗を拭う時間も取りました。左程に昨今の気温の異常な上昇は、今後も続く事と思われまます。これまで、大会開始を正午の正式参拝からとしておりましたが、今後は開始時間を少し早める事も検討して行かねばと考えております。大会関係者参加者はもとより多くの方々のご協力を持ちまして第二十四回大会を無事に終了出来ました事を主催者と致しまして感謝申し上げます。

来年も六月二日に行う事が決定しております。相変わらずのご参加をお待ち申し上げます。

第二十四回

宮島厳島神社奉納

古武道演武大会報告

至誠館 藤井 正巳

平成三十年六月三日・第二十四回宮島厳島神社奉納古武道演武大会が晴天のもと開催されました。

以前より一般社団法人大日本武徳会の全面的な後援事業となり質・技・品格・威厳等が格段に優れた大会になっておりました。

十一時より宮島厳島神社控え所で昼食をとり着替

えをし十二時より神社本殿にて、中丸支部長、藤江大会実行委員長、山本理事、藤井監事、森内先生、中西先生が大玉串を奉り、会員一同祈願いたしました。

宮島厳島神社祓殿において中丸支部長の挨拶に始まり、濱田代表理事の祝辞の代読、山本理事の祝辞があり、十二時三十分奉納演武の開始となりました。

最初に祓いの儀にかえ神伝円心流の森内一藏範士の演武に始まり、貫心流居合 神武会、武心流空手道継心会、日本古武道武公館道場、中村流抜刀道悟道館、至誠館、沖繩又吉古武道光道館大阪堺守礼館、糸東流拳法空手道中西会、柳生新陰流兵法広島柳生会、素心流居合抜刀術、兵庫正武館のあと十分の休憩がとられ、先生方は体を休めました。

後半に入り一心無双流居合道剣心会、天真正伝香取神道流杉野道場、日本古武道直心会、土佐伝承直伝英信流理法塾、北撰古武道会戸山流居合道、国府流剣術居合英信館と迫力のある演武が続きます。すばらしい熱のこもった演武が続きました。

最後に理事の山本先生の虚心流の居合剣法の迫力ある演武で納めの儀となり閉会式となりました。

全国各地より、りっぱな先生方があつまり、さらに事故等もなく無事に終了しました。

ただ、最後まで残った本部の先生方の数が半分以下だったことが、非常に残念でなりません。

宮島厳島神社の奉納において厳島神社の大神様の加護のもとこれからの各先生方の益々の発展と更なる向上を願います。

また、一般社団法人大日本武徳会、さらに公認広島県支部の、ますますの繁栄とご発展をお祈り申し上げます。

さよなら滋賀武徳殿
お別れ会に参加して

渡邊 佳代子

平成三十年三月二十五日(日)「さよなら武徳殿」が滋賀県体育文化館にて開催され、上村理事と共に参加致しました。この武徳殿は昭和十二年に大日本武徳会滋賀県支部の武道場として建設され、昭和三十一年に「武徳殿」から「滋賀県体育文化館」と改称されました。当時は滋賀県唯一の武道館だったこともあり、年間八万人の利用者があったとのことでした。その後時代の波にのまれ八十一年の歴史に幕を閉じることになりました。

この場所に新たに建てる建築の一角には、以前ここに武徳殿があったことを後世に残すための展示スペースを設けるそうです。そこには、歴史を伝える資料としての写真、武徳殿が滋賀県体育文化館となり閉館されるまでのあゆみ、壁に装飾された彫刻、瓦などを展示するそうです。この展示によって、この大きく両手を広げて空を見上げる様に建っている雄大さを春のやわらかい陽射しを天窓から集めることで道場内を明るく照らしている優しい光を、黒く光る温もりのある床板があったことを、どれ程に伝えられるのだろうか。

私達は武道を続けることで、先人たちの残してくれた精神、伝統、歴史を感じ取り、見えないものを見ることを心掛けて、日本人である事を忘れずにいなければならないと思う。私は終戦後、命がけで武道を通じて日本を守る為の心を残して下さった先生方に敬意をはらうと共に感謝を伝えたい。そして、後進の一人でも多くの人に見える形稽古に秘められた思いを感じてもらえる稽古のできる先輩になりたいと思う。

